nichicon

Corporate Profile

価値ある製品を創造し、
明るい未来社会づくりに貢献する。

カーボンニュートラルの実現

エネルギーの自給自足

もしもの停電時に電気の備え

モビリティのさらなる
電動化、電装化

データ処理のさらなる高速化

高度医療の普及

コンデンサ

回路製品

蓄電システム

研究・医療・
産業用特殊電源

省エネ・蓄エネ・創エネの技術で
電気をマネジメントし、
便利で健康で安心な暮らし、
デジタル社会、産業を支え、
地球環境保全に貢献する－
それが、ニチコン。

経営理念

価値ある製品を創造し、

明るい未来社会づくりに貢献します。

より良い地球環境の実現に努め、

倫理的・社会的責任を果たすとともに、

顧客・株主・従業員をはじめ

全ての人々を大切に、

企業価値の最大化を目指して、

誠心誠意をもって「考働」します。

考働：考えて働くという当社の造語

経営方針

トップノッチ経営 ——

「品質・コスト・納期・サービス・技術」などあらゆる面で最上級を目指す

このトップノッチとは「最上級の、一流の」という意味です。ニチコンは、従来のモノづくりから、お客さまの期待以上の価値を提案し、喜びや感動を提供する“コトづくり”の視点に転換し、製造業から“創造業”を目指す活動を展開しています。

トップメッセージ

価値ある製品を創造し、明るい未来社会づくりに貢献する ――

この経営理念を指針に、ニチコングループは「コンデンサ事業」と「NECST事業」を展開し、革新的な製品の開発・提供を通して持続可能な社会の実現に寄与する価値を創造してきました。

我々の使命の本質は、単なるモノづくりではなく、SDGsにも目指されているような「明るい未来社会」を創るためのコトづくり、価値あるソリューションの提供です。

私たちは“創造業”として、お客さまに喜びと感動を提供してまいります。

代表取締役社長　森 克彦

代表取締役会長　武田 一平

会社概要

社　　名	ニチコン株式会社　NICHICON CORPORATION
所 在 地	京都市中京区烏丸通御池上る
設　　立	1950年8月1日
株式上場	東京証券取引所 プライム市場 証券コード 6996

会社概要

資本金	売上高（連結）	海外売上高比率	自己資本比率
142.8億円	1,697億円	50.7%	61.2%
2026年3月31日現在	2026年3月期	2026年3月期	2026年3月31日現在

社員数（連結）	事業拠点	グループ会社数
4,982人	11カ国43拠点	28社
2026年3月31日現在	2026年3月31日現在	2026年3月31日現在

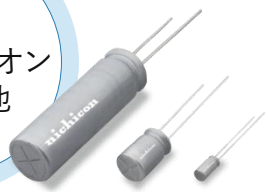
事業

コンデンサ事業
Capacitor

アルミ電解コンデンサ、導電性高分子アルミ固体電解コンデンサ、導電性高分子ハイブリッドアルミ電解コンデンサ、フィルムコンデンサ、小形リチウムイオン二次電池等の電子デバイスを主体としたニチコンの基幹事業

フィルムコンデンサ

小形リチウムイオン二次電池



アルミ電解コンデンサ

電力用コンデンサ

NECST事業
Nichicon Energy Control System Technology

家庭用／公共・産業用蓄電システム、各種電源、機能モジュール、応用関連機器等の回路製品を主力製品としたニチコンの成長事業

V2Hシステム

家庭用蓄電システム

公共・産業用蓄電システム

EV・PHEV用急速充電器

重点市場

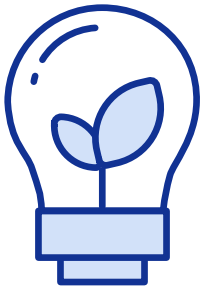
コンデンサ事業
Capacitor

アルミ電解コンデンサ、導電性高分子アルミ固体電解コンデンサ、導電性高分子ハイブリッドアルミ電解コンデンサ、フィルムコンデンサ、小形リチウムイオン二次電池等の電子デバイスを主体としたニチコンの基幹事業

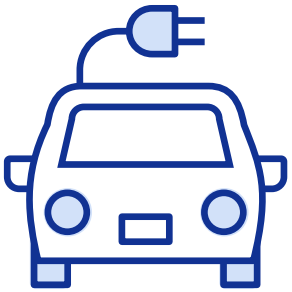
NECST事業
Nichicon Energy Control System Technology

家庭用／公共・産業用蓄電システム、各種電源、機能モジュール、応用関連機器等の回路製品を主力製品としたニチコンの成長事業

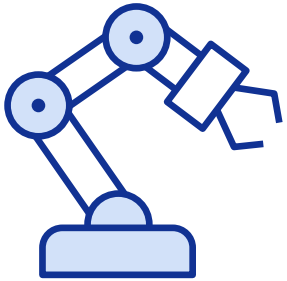
エネルギー・環境・医療機器



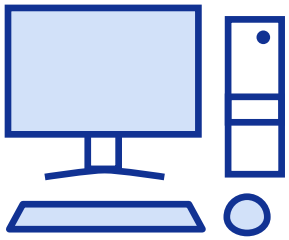
自動車・車両関連機器



白物家電・産業用インバータ機器



情報通信機器



お客様・社会に提供する価値

コンデンサ事業
Capacitor

アルミ電解コンデンサ、導電性高分子アルミ固体電解コンデンサ、導電性高分子ハイブリッドアルミ電解コンデンサ、フィルムコンデンサ、小形リチウムイオン二次電池等の電子デバイスを主体としたニチコンの基幹事業

NECST事業
Nichicon Energy Control System Technology

家庭用／公共・産業用蓄電システム、各種電源、機能モジュール、応用関連機器等の回路製品を主力製品としたニチコンの成長事業

エネルギー・
環境・医療機器

自動車・
車両関連機器

白物家電・
産業用インバータ機器

情報通信機器

お客様・社会に提供する価値

カーボンニュートラルの実現
クリーンエネルギー
省エネ

情報通信機器の機能拡大
快適性

高度医療の普及拡大
安心・安全

クオリティ オブ ライフの向上
安心・安全

災害時の復旧支援
安心・安全
BCP

特長

革新的な製品・技術開発

太陽光発電の電力を夜でも使えるように業界に先駆けて市場導入した「家庭用蓄電システム」、EV・PHEVからの電力を家庭で活用できるようにした世界初の「V2Hシステム」、太陽光で発電した電気を家庭やEVに活用できるようにした「トライブリッド蓄電システム®」など、革新的な製品を次々と世に送り出しています。

特長

革新的な製品・技術開発によるプレゼンス

国内 No.1

家庭用蓄電池の累積販売台数

オンリーワン

SLB（小形リチウムイオン二次電池）

国内No.1のシェア

医療用、学術用加速器電源

世界初

電気自動車（EV）からの給電を可能にしたV2H（Vehicle to Home）システム「EVパワー・ステーション®」を開発

オンリーワン

太陽光で発電した電気を家庭やEVに活用できる「トライブリッド蓄電システム®」を開発

特長

創造業としての社会貢献

単に良い製品をつくる製造業ではなく、お客様や社会が必要とする価値づくりや世の中を変えるようなコトづくりをめざしています。この“創造業”としての発想によって、社会をより良く変えていきます。例えば、NECST事業の生み出してきた蓄電製品は、創造業としての社会貢献事例といえます。

フィリピンを襲った台風「ライ」の被災地で活躍するパワームーバー（2021年12月）

特長

多様性を確保した人材育成

「人」こそ最大の経営資源と考えています。多様な人材を採用・登用し、一人一人が能力を発揮して活躍しています。人材育成プログラムは基礎的なことから高度な内容のものまでを用意しています。特徴的なものは大学との連携によるMOT（Management of Technology）教育で、経営のわかる技術者、技術の価値がわかる経営者を養成しています。

特長

産学連携など活発な研究開発活動

新しい価値創造に挑戦し、事業を拡大していくため、独自の研究開発に加え、

技術振興機関や異業種企業、大学とともに技術開発を行っています。

例）
- ■東京大学生産技術研究所・ニチコン産学連携研究協力協定
- ■グリーンイノベーション基金事業におけるカーボンニュートラル実現に向けた大規模P2Gシステムによる エネルギー需要転換・利用技術開発に係る事業に参画
- ■次世代パワー半導体SiC電力変換モジュールの開発：科学技術振興機構によるスーパークラスタープログラムに参画
- ■フィルム型ペロブスカイト太陽電池を活用したメンテナンスフリー電子棚札システム： 株式会社エネコートテクノロジース、リコー電子デバイス株式会社
- ■メタマテリアル放熱シート「VSI（ヴィサイ）」：オキツモ株式会社、KISCO株式会社

特長

積極的な設備投資・研究開発投資

近年、アルミ電解コンデンサ、xEV向けフィルムコンデンサなどは特に需要が伸びており、供給ニーズに応えるため、生産能力増強・拡大のための投資を継続しています。2024年度は111億円を投資しました。また、新規事業の成長を見据えた研究開発や技術開発へも積極投資しており、その成果が画期的な製品・技術の創出や競争力強化につながっています。

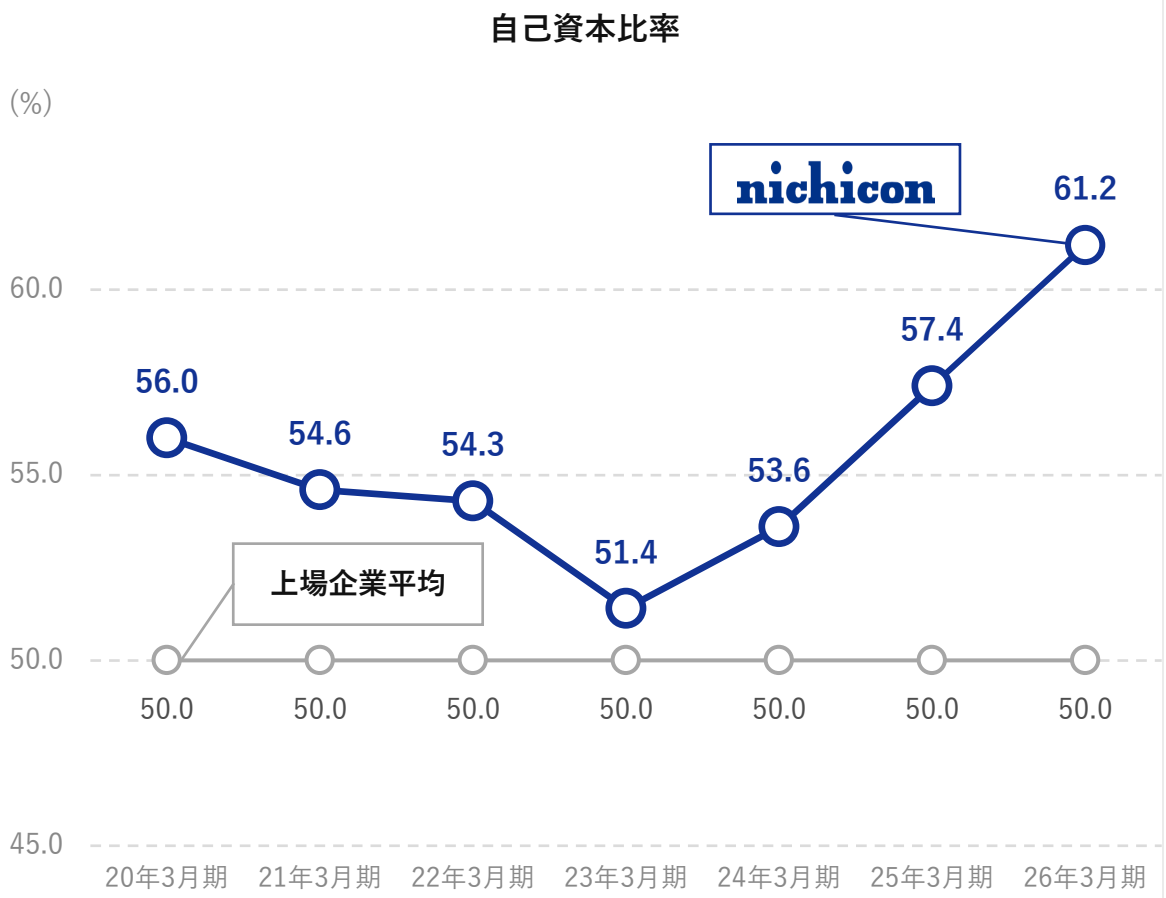
亀岡工場

無錫工場（中国）

特長

健全な財務基盤

さらなる成長を目指して大胆かつ積極的に事業戦略を展開していくには、強靭な財務体質が欠かせません。ニチコンは安定した財務体質を維持しており、自己資本比率に関しては上場企業の平均が約50％とされるなか、ニチコングループは61.2％（2026年3月末時点）と、健全性を確保しています。



特長

モノづくり革新・業務効率化のためのDX推進

2026年4月に「デジタル化推進本部」を設け、DXへの取り組みを本格化しています。DXを成長ドライバーとして各部門の業務を合理化・効率化し、イノベーションや新たなビジネスの創出に取り組んでいます。

「稼ぐ力」に磨きをかけることで、次なる成長のための設備投資や研究開発投資、優秀な人材の確保といった好循環を生み出していきます。

サステナビリティ方針

私たちは、ニチコングループ経営理念に基づき、価値ある製品の創造を通じて明るい未来社会づくりに貢献するとともに、より良い地球環境の実現に努めます。また、全てのステークホルダーに対し誠心誠意をもって対応し、企業の社会的・倫理的責任を果たすことで、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します。

#01

素材開発からシステム設計まで幅広い技術を融合し、デジタルトランスフォーメーションとオープンイノベーションの推進により気候変動など社会の課題を解決し、明るい未来社会づくりに貢献します。

#02

全てのステークホルダーとの対話と連携を大切にし、共有価値の創造と公正かつ透明性の高い経営を実現します。

#03

人権の尊重と多様性の確保、人材の育成、トップノッチ経営によりお客様価値を高め、企業の発展と全従業員の幸福を目指します。

nichicon

資料編

あゆみ

会社

1950.8
(株)関西二井製作所を設立

1961.4
日本コンデンサ工業(株)に商号を変更

1987.10
ニチコン(株)に
商号を変更

2010.3
本社に
「NECSTプロジェクト」を新設

2020.8
創立70周年

上場

1961.10
東京および大阪証券取引所第二部市場
および京都証券取引所に上場

1962.9
名古屋証券取引所第二部市場に上場

1966.8
東京・大阪・名古屋証券取引所
第一部市場へ指定替え

2022.4
東京証券取引所
プライム市場へ移行

海外展開

1969.8 台湾
1970.9 シカゴ
1972.5 香港
1973.12 韓国
1978.9 シンガポール
1990.3 マレーシア
2001.2 タイ
2001.6 中国
2001.12 オーストリア
2014.8 インド
2018.7 ベトナム

主な受賞・表彰・外部評価

2006年4月
文部科学大臣表彰 科学技術賞

高エネルギー円形加速器における誘導加速の研究

2007年6月
経済産業大臣賞

電気二重層コンデンサを用いた瞬時電圧低下補償装置
（電設工業展製品コンクール）

2010年12月
文部科学大臣および宇宙開発担当大臣より感謝状

小惑星探査機「はやぶさ」に搭載されたフィルムコンデンサ「EMシリーズ」の貢献に対して

2011年6月
環境大臣賞

太陽電池・蓄電池併設の低圧受電型EV用急速充電システム
（電設工業展製品コンクール）

2012年7月
一般社団法人 日本電設工業協会 再生可能エネルギー促進賞

「創エネ」&「蓄エネ」型エネルギーマネジメントシステム
（JECA FAIR2012製品コンクール）

2012年10月
CEATEC AWARD2012 準グランプリ

EVパワー・ステーション／ホーム・パワー・ステーション（現 パワーオアシス）

2013年1月
省エネ大賞・経済産業大臣賞

ニチコン製EVパワー・ステーションを使用した「LEAF to Home」電力供給システムで日産自動車株式会社様が受賞

2013年4月
第42回 日本産業技術大賞・文部科学大臣賞

理化学研究所のX線自由電子レーザー(XFEL)施設SACLAで共同受賞

2013年10月
CEATEC AWARD2013 準グランプリ

スマートアグリネットワークシステム
～TPPに対抗する6次産業化～

主な受賞・表彰・外部評価

2014年7月

**一般社団法人 日本電設工業協会
奨励賞**

リチウムイオン電池式 停電補償装置
（JECA FAIR2014製品コンクール）

2017年10月

**CEATEC AWARD 2017
準グランプリ**

トライブリッド蓄電システム®

2020年10月

2020年度グッドデザイン賞

新型電気自動車用急速充電器
（東京電力ホールディングス株式会社、
株式会社e-Mobility Powerと3社で共同開発）

2020年10月

**Forbes JAPAN11月号
「注目！AIが予測する未来の成長企業ランキング」3位**

国内上場企業の時価総額上位1000社中、
3位にランクイン

2020年11月

**令和2年度気候変動アクション
環境大臣表彰**

革新的技術開発等による温室効果ガス排出削減と災害対策における社会貢献活動に対して

2021年10月

**特許出願のSDGs指向性評価指標
「Japio-SDGs特許インデックス」
企業ランキング3位**

電子部品・デバイス・電子回路製造業部門
で3位にランクイン

主な受賞・表彰・外部評価

2021年11月
**令和3年度近畿地方発明表彰
文部科学大臣賞**

金属化フィルムコンデンサ

2024年2月
**令和5年度「新エネ大賞」
新エネルギー財団会長賞**

DCリンク型産業用蓄電システム

2024年6月
**JECA FAIR 2024製品コンクール
環境大臣賞**

V2Hシステム「EVパワー・ステーション®」
VSG3シリーズ

2025年2月
**CDP気候変動調査
最高評価の「Aリスト」に選定**

2025年10月
2025年度 グッドデザイン賞

サイクリックマルチ充電器

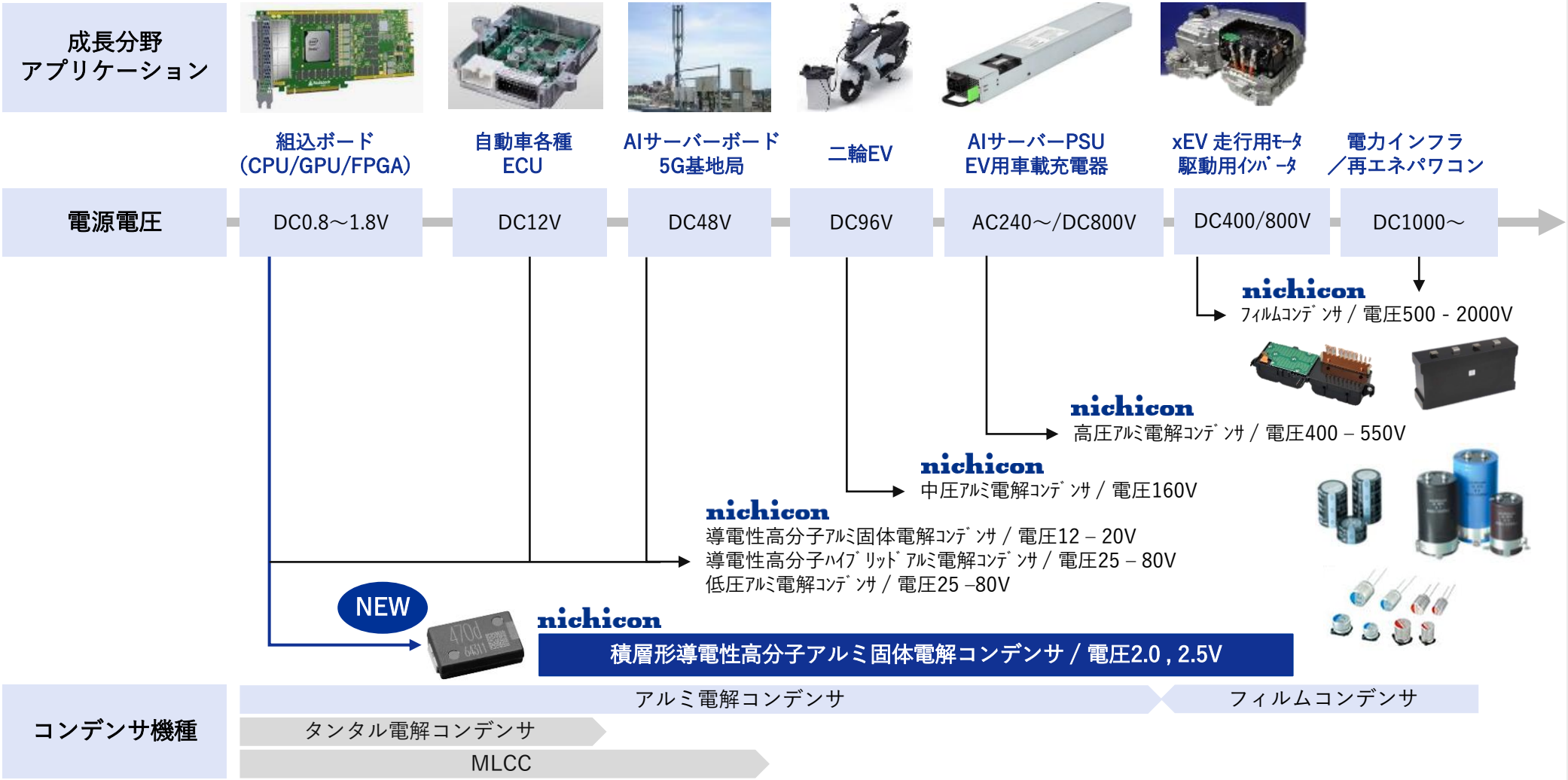
2025年12月
CDP2025気候変動、水セキュリティ 両分野で最高評価の「Aリスト」に選定

nichicon

コンデンサ事業

Capacitor

成長市場に対する当社コンデンサ機種展開



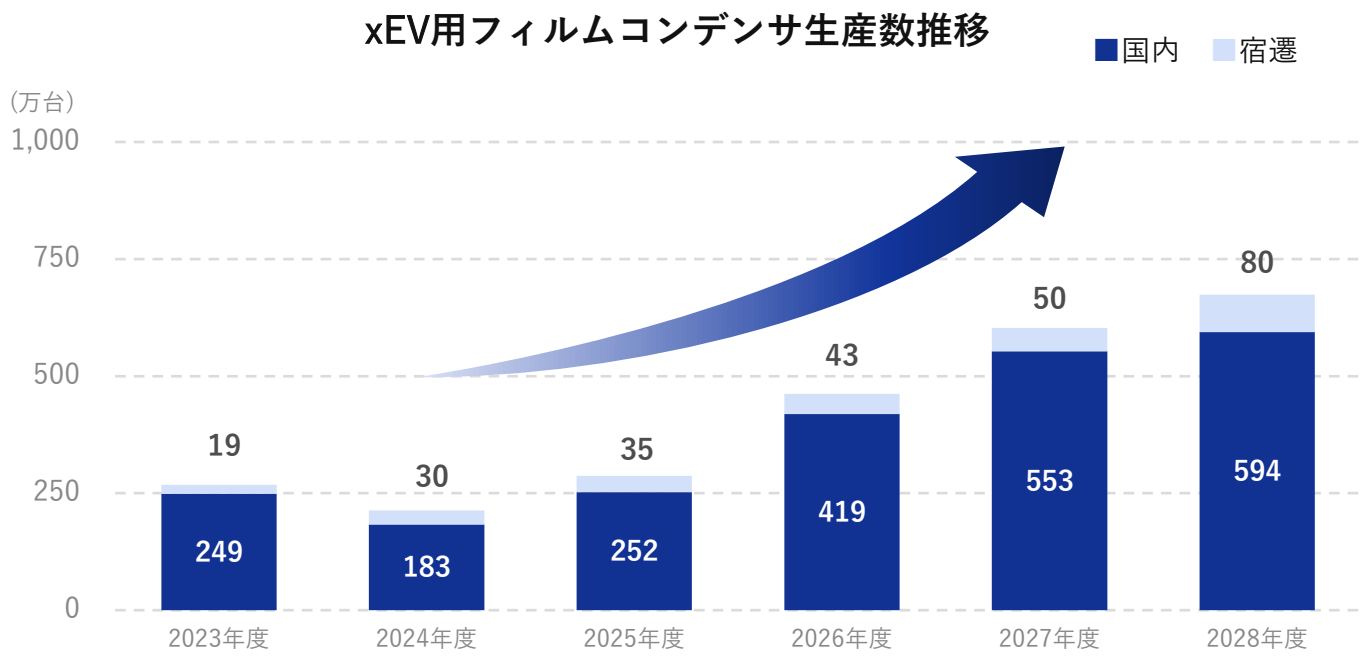
特長

車載向け　産業機械向け　エアコン向け　情報通信向け

電動化の進展により、車載向けフィルムコンデンサの需要が拡大

フィルムコンデンサはxEV（EV・HEV・PHEV）用モータ駆動インバータに対して重要な部品です。
当社の高い設計技術力と解析力・シミュレーション力を強みにグローバルに販売が急拡大しています。
今後も世界各国のEV化を追い風に環境対応車市場のさらなる拡大を見込んでいます。

マザー工場のニチコン草津に加えて、国内では長野県、また海外では中国の宿遷市にて生産開始し、グローバルで月産45万台体制（国内35万台、中国10万台）を確立。
日本、中国、北米、欧州のxEV(EV・HEV・PHEV)用フィルムコンデンサの需要に対応します。



特長

車載向け　産業機械向け　エアコン向け　情報通信向け

電装化の進展により、車載向けアルミ電解コンデンサの需要が拡大

BEV・HEV・PHEVを代表とした環境対応車の普及に伴い、新たに電子制御ユニット（ECU）やセンサー類、表示パネル、操作機器が追加されます。これらの電子制御ユニットはエンジンルーム内に集中化し、更には複数のECUが担っていた機能を1つのECUに集約する開発も加速しています。電子制御ユニットの増加と高機能化により、受動部品であるコンデンサの需要が益々増加しています。

自動車は、ユーザーや環境対応のような社会の要求、場合によっては政治的な要求に応えながら進化し続けてます。その期待に応えるため、Tier-Xメーカーは様々なECUを開発してきましたが、そこには受動部品である「コンデンサ」の存在と発展が欠かせません。
ニチコンは、常に市場要求に応じたアルミ電解コンデンサおよびハイブリッドアルミ電解コンデンサを開発し続けており、多くのTier-Xメーカーへ供給しています。

用途例

パワートレイン
- 電動パワーステアリング
- パワーコントロールユニット
- トランスミッション/ギアボックス制御
- DC/DCコンバータ

自動車用照明
- LEDヘッドランプ
- リアランプ（フィラメント電球、LED）
- ウインカー
- レベリング / 赤外線 / センサー / ワイパー

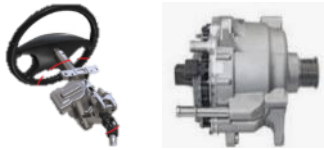
安全エレクトロニクス
- ADAS（Advanced driver assistance system）
- エアバッグ
- ABS（Anti-Lock Brake System）
- ESP (Electronic Stability Program)
- 歩行者保護ユニット

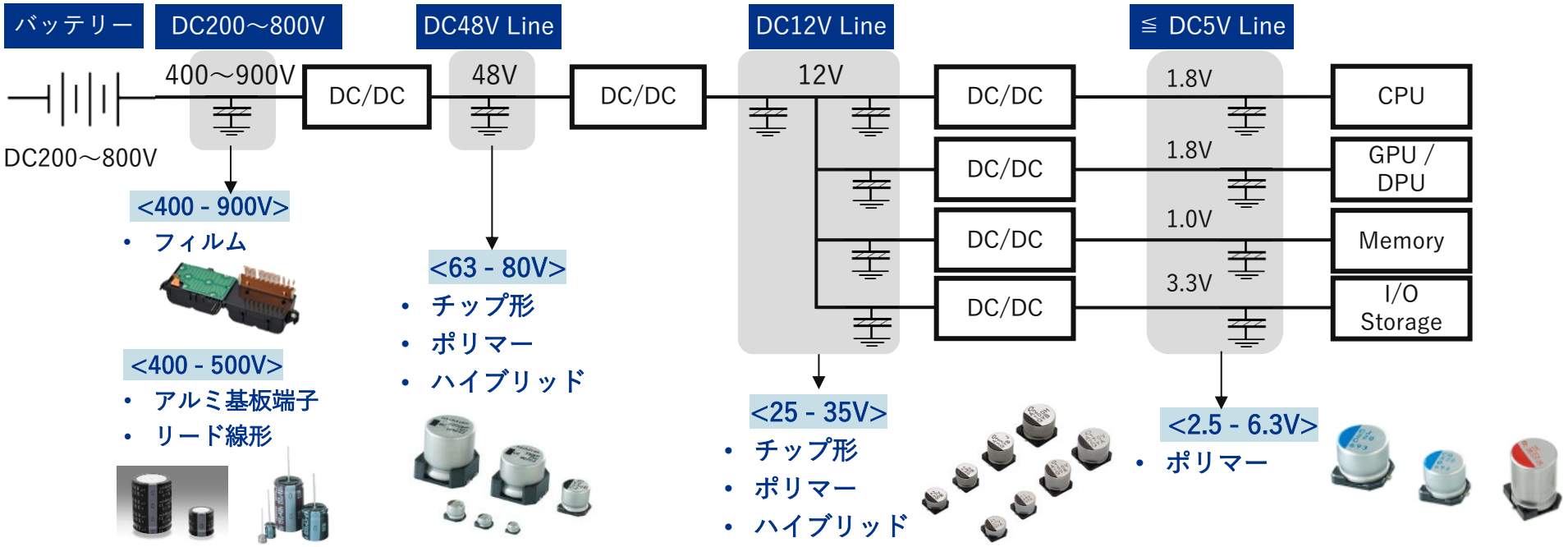
ボディとシャシー
- カーオーディオ
- インストルメントクラスター
- ACC（Automatic Cruising Control）
- ボデーコンピュータ、パワーウィンドウ

特長

車載向け　産業機械向け　エアコン向け　情報通信向け

成長市場アプリケーション事例　（xEV用途）

xEV バッテリー	INV / OBC / DC-DC	EPS / EOP/ EWP	各種制御ECU	ADAS / SDV ECU
	3 in 1			
DC200 ～ 800V	DC200～800V	DC12～48V	DC1.8/3.3/5/12V	DC1.8/3.3/5/12V



特長

生成AIサーバー・データセンターや基地局に最適なコンデンサ製品を開発・供給

スマートフォンなどの「通信」機器や「コンピュータ」は2020年以降も市場は堅調に推移する見込みである一方で自動車・宇宙航空、医療、産業用途、コンシューマーは今後も高いレベルの成長が見込まれています。長期的には、インターネット活用の主役はIoTデバイスに切り替わっていくことになります。これらの潮流を後押しするのが、AI(人工知能)技術や5G・6G(次世代移動体通信システム)の普及であり、下支えするのが、データサーバーの高性能化・規模拡大や通信基地局のスマートグリッド化・増設です。

あらゆる業界でIoT活用が進み、多くのIoTデバイスがインターネットに接続する社会においてサーバー・データセンターや通信基地局は必要不可欠であり、これら機器にはコンデンサは必要不可欠な部品です。

導電性高分子アルミニウム
固体電解コンデンサ

ターゲット市場

生成AIサーバー市場（データセンター/クラウドサービス）

サーバーの動向

- 高速処理：消費電力アップ
- 高機能化：LSI負荷電流アップ
  LSIの低電圧化
  駆動回路の低インピーダンス化

コンデンサへの要求トレンド

- 低ESR
- 長寿命（105°C/125°C）

基地局（5G）市場

基地局の動向

- 小型基地局の普及
- ローカル5Gの普及
- メンテナンスフリー化

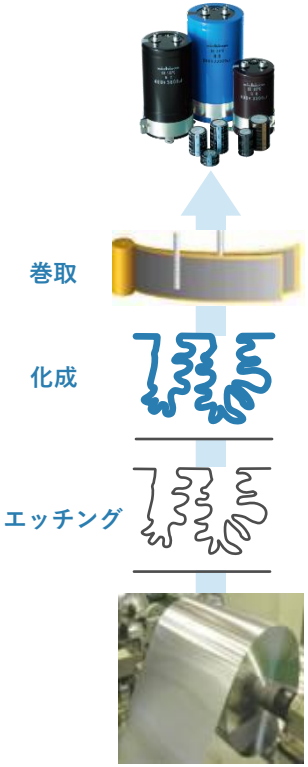
コンデンサへの要求トレンド

- 大容量/低ESR
- 高信頼（高温長寿命）
  ＊最高使用温度125°C、85°Cで10年上の期待寿命
  ＊高耐湿　85°C85%保証

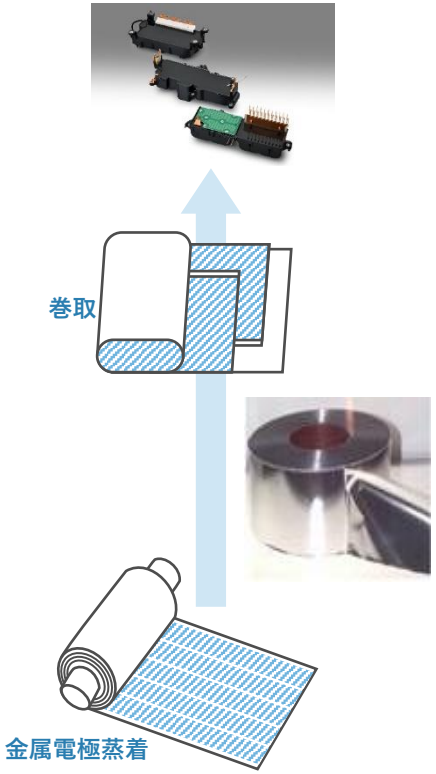
開発・生産体制

垂直統合による生産体制の強化と製品開発の推進

アルミ電解コンデンサ



フィルムコンデンサ



回路製品

ニチコン草津
- 公共・産業用蓄電システム
- 加速器用電源

ニチコン亀岡
- 急速充電器
- 機能モジュール
- パワーモジュール
- 車載充電器

**東京開発センター
ニチコンワカサ**
- ホーム・パワーステーション
- 各種スイッチング電源

nichicon

NECST事業

Nichicon Energy Control System Technology

NECST事業の変遷

~2000年 → 2011年 → 2013年 → 2015年 → 2017年

1994
パルス電磁石電源

2004
蓄電型太陽光発電システム

2007
瞬時電圧低下補償装置

2008
リチウムイオン
蓄電池充放電電源

2009
車載充電器

2011
小型急速充電器

2012
EVパワー・ステーション

2012
家庭用
蓄電システム

2012
停電補償装置

2013
公共・産業用
蓄電システム

2014
セパレート型
公共・産業用蓄電システム

2015
超小型急速充電器

2015
SiC電力変換モジュール
(スーパークラスタープログラム)

2016
ハイブリッド
蓄電システム

2017
トライブリッド
蓄電システム

2017
パワー・ムーバー

2017
ポータブル
蓄電システム

2017
SiC電力変換
モジュール(NEDO)

NECST事業の変遷

2018年 2021年 2022年 2023年 2025年

2018
EVパワー・ステーション

2021
単機能蓄電システムU4M1

2022
トライブリッド
蓄電システム

2023
新型EVパワー・
ステーション

2025
サイクリックマルチ
充電器

2018
単機能蓄電池U3S1

2021
パワー・ムーバー Lite

2022
DCリンク型産業用蓄電システム

2023
発展型太陽光
パワーコンディショナ

2025
公共・産業用蓄電システム
BSシリーズ

2019
単機能蓄電システム(U2X1)

2021
200kW出力
マルチ
急速充電器

2022
100kW/50kW出力
急速充電器

特長

蓄電関連 | 応用製品（加速器用電源） | 応用製品（医療用加速器電源） | 主力製品

ラインアップ完成による更なる拡大

ニチコン家庭用蓄電システムNEWラインアップ完成

お客様のニーズを叶える、幅広いラインアップ

トライブリッド蓄電システム
ESS-T5/T6シリーズ
「太陽光発電」「蓄電池」「EV電池」の３つのエネルギーをコントロールできる業界初のシステム

NEW
単機能蓄電システム
ESS-U5シリーズ
いつもの暮らしを快適に、
もしもの停電時でも安心
「いつも」と「もしも」に光を
灯す、どちらも叶える蓄電システム

ハイブリッド蓄電システム
ESS-E1シリーズ
太陽光を暮らしの未来まで照らす
エネルギーに「太陽光発電を設置するなら」
最適な発展型太陽光パワコン

家庭用蓄電システムの JC-STAR 認証取得

全ラインアップでJC-STAR★１を取得
ニチコンならセキュリティも安心！

ニチコン製品のセキュリティを確保し、
お客様の暮らしを支える安心・安全な
エネルギーソリューションをご提供します

ESS-T5/T6、ESS-E1、
ESS-U5、ESS-T3、ESS-U4
シリーズにて対応

家づくりの新基準「GX ZEH」

大手ハウスメーカーを中心に「GX ZEH」基準を標準仕様として採用する動きが進んでいくと想定される。

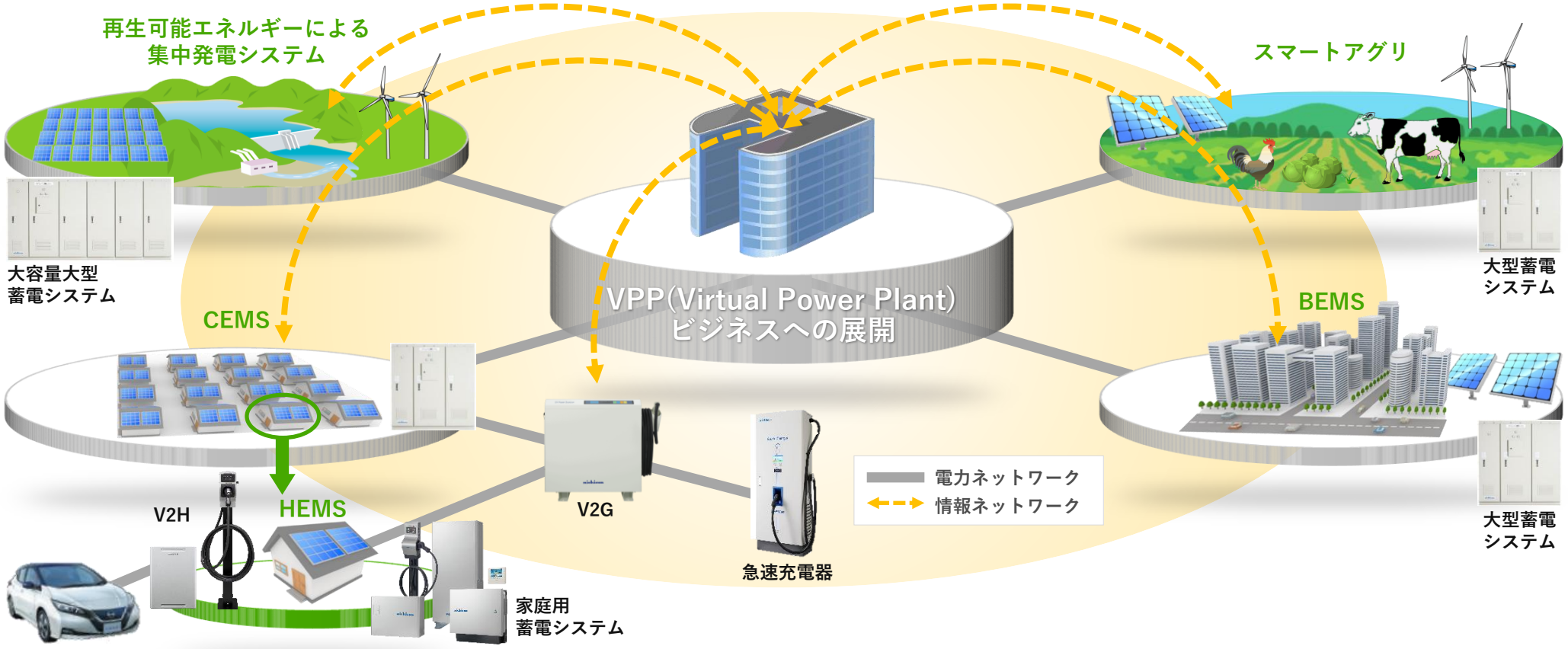
蓄電池必須化を機会にハウスメーカーと連携して蓄電システムの販売を更に強化。

特長

蓄電関連 | 応用製品（加速器用電源） | 応用製品（医療用加速器電源） | 主力製品

地産地消を目指した分散型電源ネットワークで、スマートなシティー・社会の実現に貢献

ニチコンの考える再生可能エネルギーが主役の「地産地消」を目指した環境社会



特長

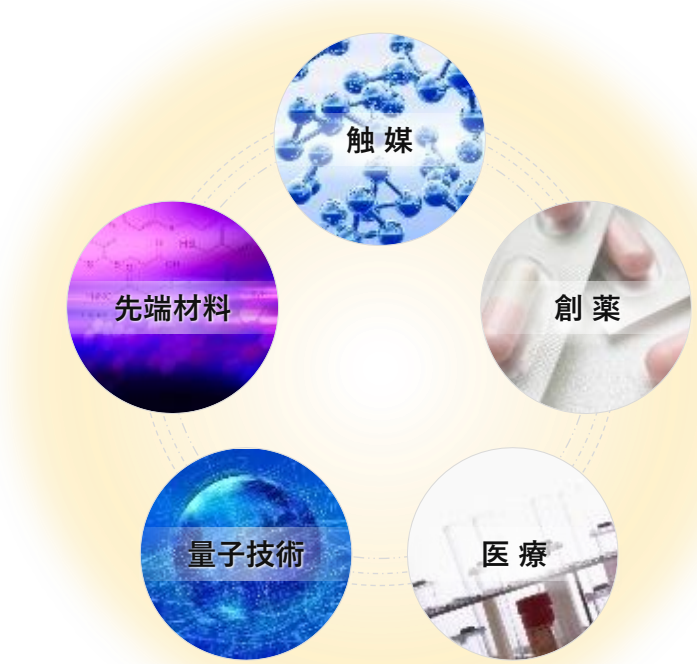
理化学研究所 SPring-8/SACLAで得た電源技術を活かして、高安定度・高信頼度の光源を実現する電源を供給

2020年から2022年にかけて軟X線向け高輝度3GeV級放射光源
(次世代放射光施設)の最新加速器用電源の設計・生産に着手。
2024年4月より運用を開始いたしました。

国内放射光施設

３GeV高輝度放射光施設
NanoTerasu（ナノテラス）

次世代放射光の貢献が期待される分野



特長

国内26施設のがん粒子線治療施設のうち、15施設に加速器用電源を納入

出典：名古屋陽子線治療センター

国内

実績：15施設

国内26施設のがん粒子線治療施設のうち、15施設に納入

最近の国内設置事例
- 大阪重粒子線センター
- 京都府立医科大学
- 山形大学 医学部 東日本重粒子センター

海外

実績：9施設

海外での納入実績についても、北米を中心に拡大

特長

応用製品の取り組み　～ フュージョンエネルギー ～

「資源の枯渇問題への対策」、
「排出物削減による環境負荷の軽減」から
フュージョンエネルギーが再び注目
市場規模2023年見込：46.8兆円
⇒2033年想定：81.5兆円
※Spherical Insights：世界の核融合技術市場
（2024年8月）

2023年4月に政府により
「フュージョンエネルギーの産業化」 が
ビジョンとして掲げられ、
2024年3月に「J-Fusion」※ が設立
※J-Fusion：一般社団法人フュージョンエネルギー産業協議会の通称

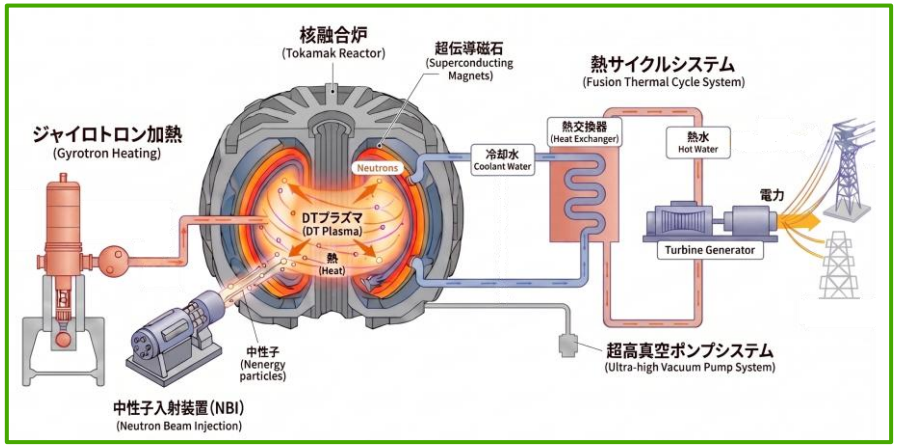
nichicon
フュージョンエネルギーで重要な
プラズマ状態を作り出す装置を
駆動させる大容量電源等の
案件に取り組み中

京都フュージョニアリング株式会社の研究開発拠点「KF滋賀イノベーションファクトリー」の開設への協力

- ジャイロトロンシステムの開発支援として
  ニチコン草津株式会社 安曇川工場の一部を貸与(2026年2月発表)
- ジャイロトロンシステムに組み込む大電力電源の設計・製造を進捗中

その他

- 研究機関、民間企業などからフュージョンエネルギーシステムに関わる電源の引き合いが増加



フュージョンエネルギー装置概略図

特長

公共・産業用蓄電システム

BCP・防災対策

家庭用蓄電システム

JET認証取得第1号

V2H(EV パワー・ステーション®)

世界初の製品化 / JET認証取得第1号

急速充電器

省スペース・軽量化

3 GeV高輝度放射光施設　NanoTerasu（ナノテラス）

加速器用電源

医療用加速器電源（がん粒子線治療施設）